

梅「南高」肥大良好
手作業で選別厳選

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】御浜町のJA伊勢統一選果場で、梅「南高」が本格的な出荷シーズンを迎えている。2025年産は、5月下旬に出荷が始まった。品質が良く、サイズもやや大

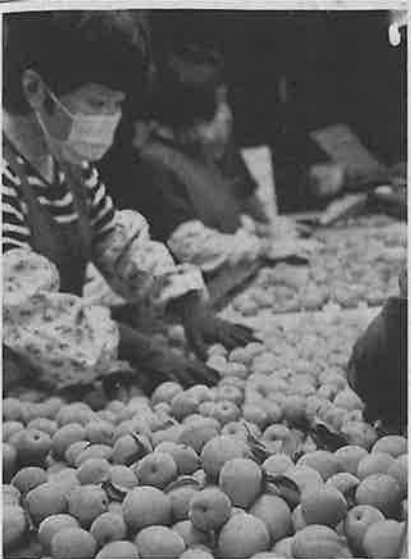
きめだが、数量は、2月の厳しい寒さの影響による着果不良で、例年の半数となる約50トを見込む。県内や愛知県、加工業者への契約販売も行う。

選果場では、作業員約20人が、選果機を流れる青梅を目視で確認し、傷やつぶれがある

ものを手作業で取り除き、5段階の規格に分けて専用段ボール箱に詰めた。6月中旬まで梅酒やシロップなどに適した青梅の出荷が続き、その後は梅干し加工に適している熟した梅に移る。

JA営農柑橘（かんきつ）グループの古芝正樹副グループ長は「出荷量は、平年の5割ほどになる見込みだが、外観・サイズとも良く仕上がっている。早めに手に取ってもらいたい」と話した。

同地区管内では、御浜町と紀宝町を中心に、生産者約70戸が約7畝で「南高」を栽培する。



「南高」を丁寧に選果する作業員